

KIMURA

「阿姆斯特ダムの港」"Amsterdam" 100F 1976



木村忠太回顧展

1989年3月4日[土]—3月26日[日]

開館時間—午前9時→午後5時(入室は午後4時30分まで) ▶休館日は月曜日

入場料—一般700円(500円) 高・大生400円(300円) 小・中生200円(100円)

()内は前売り、団体20名様以上2割引

共催／四国新聞社

高松市美術館

高松市紺屋町10番4号 TEL.0878(23)1711



1.



2.



3.



4.

●木村忠太回顧展

四国・高松の栗林公園の近くに生まれた木村忠太は、1953年に夫人とともにフランスへ渡って以来、ほとんど帰国することもなく、パリの画家として制作を続けました。そして1960年頃から四角い色面とキャリグラフィックな線の特徴とする独自の力強い風景画を確立し始め、ソルボンヌ大学教授ジャン・グルニエの認めるところとなりました。またその作品はパリ市やフランス政府にも買い上げられ、1984年には同国より芸術文化勲章を授与されています。その翌年にはワシントンのフィリップス・コレクションで開催された大個展でも成功をおさめ、アメリカでも高く評価されましたが、1987年7月3日、ニューヨークで個展開催中に惜しくもパリで急逝しました。

この日本で初めての本格的な回顧展は、画風が確立したと見られる1965年以降の作品を中心に総点数 115点によって、初期から晩年にいたる木村芸術の歩みをたどります。

●美術講演会のおしらせ

期 日：3月5日(日) 午後1時30分より

ところ：美術館 講堂

入場料：無 料

講 師：南條 彰宏 氏 (アート・ヨミウリ・フランス代表)

テーマ：「木村忠太の世界」

●常設展のおしらせ

4月9日まで

《常設展示室1》

・戦後日本の現代美術

1950年代に自由な創作活動を目指した団体がいくつか現れましたが、その中でもひとときわ創造的な活動を行った、〈デモクラート美術家協会〉、〈実験工房〉とその周辺の作家たちに焦点を当てています。

・20世紀世界の版画

重要なシュールリアリスト(超現実派)の一人であるドイツ出身の作家マックス・エルンストの代表作「博物誌」を展示しています。

《常設展示室2》

・漆芸

江戸時代末期の玉椿象谷を祖とし、その一門から明治・大正期の名工たちに引き継がれ、人間国宝の磯井如真・音丸耕堂らによって新しい展開をみせた讃岐漆芸の流れを、時代をおって展示しています。

・金工

工芸家のグループ「无型」、「工人社」で活躍し、近代工芸界の改革を推進した北原千鹿の優れた金工の数々と、その金工下絵を紹介いたします。

(木村忠太回顧展より)

1. 食事 (1949)
2. ロワイヤル通り (1954)
3. 地下鉄の駅 (1963)
4. 丘にのぼる道 (1979)

〒760 香川県高松市紺屋町10-4

高松市美術館

☎ (0878) 23-1711(代表)

☎ (0878) 23-1500(テレフォンサービス)